

1. 構想の概要

【構想の名称】

TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想：地球規模での健康レベル向上への挑戦

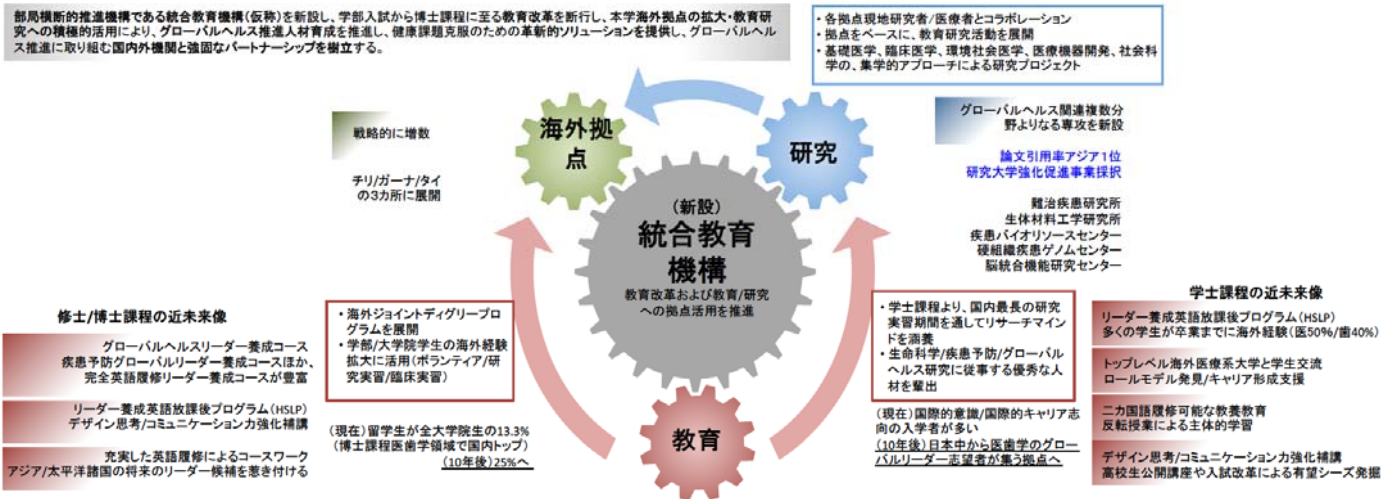
【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

- (Goal 1) アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位を確立する。
- (Goal 2) グローバルヘルスデリバリーに主眼を置いた海外フィールド基盤型研究活動を展開して世界規模の健康課題克服のための革新的ソリューションを提供する。
- (Goal 3) グローバルヘルス推進に取り組む国内外機関(国際機関、NGO/NPO、研究機関、フィールド機関、基金など)と強固なパートナーシップ・ネットワークを形成し、フィールドにおける課題克服だけでなく、我が国をはじめとした様々な国・地域における課題克服のため研究/教育/医療の全チャネルを開いて貢献し、双方向性の協力関係を築く。

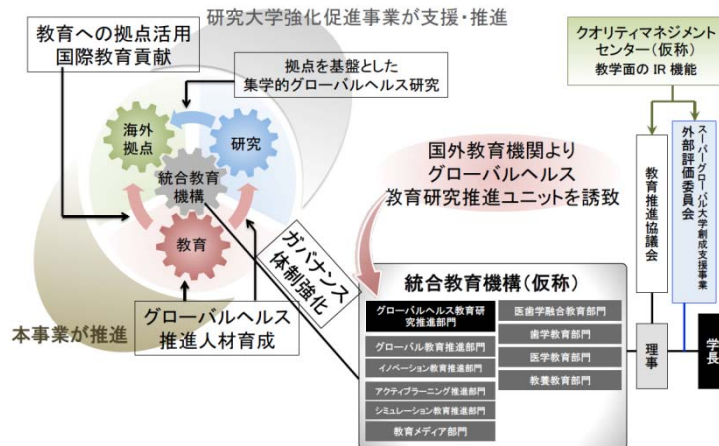
【構想の概要】

「日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上にむけて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界とともに発展的存続を実現する」ために中心となる、グローバルヘルス推進人材の育成を行う取組である。この取組として、(1)ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革を行い、(2)入学者募集方法から、入試、学士(教養)、学士(専門)、修士/博士課程までを通じた全体的な教育改革を行い、(3)本学海外教育研究協力拠点の拡充/拡大およびそれらを活用した積極的な教育研究を展開する。これら取組を通して、上記の3つのゴールへの到着を目指すとともに、本学における他の様々な取組・活動を推進し、本学の国際通用性・認知度・国際競争力の向上を図る。

構想の概要



実施体制



【10年間の計画概要】

推進体制整備

既存の複数の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整えた統合教育機構（仮称）を全学組織として新設する。平成26年度よりその準備・調整・編成を随時進め、平成28年度に整備を完了する。

入試改革

高大接続の一環として、本学新生を対象とした国際保健問題英語模擬交渉について、高校生にも門戸を開く（平成27年度より）。国際バカロレア入学枠設置や語学力評価におけるTOEFL活用についての検討を進め、平成30年度入学生に対する選抜過程より導入する。

学士（教養）改革

人文社会系科目を中心に二ヶ国語履修を可能とし、反転授業の導入および少人数教育環境創出などによるアクティブラーニングの導入を平成28年度以降開始する。

学士（専門）課程改革

反転授業の導入および少人数教育環境創出などによるアクティブラーニングの導入を平成29年度以降開始する。

修士/博士課程改革

コースワークの充実化および英語化を進め、平成35年度には全大学院科目の59%を英語履修とすることを目標とする。

少人数リーダー養成英語選抜プログラム Health Sciences Leadership Program (HSLP) の拡大

平成28年度より学士課程HSLPの規模拡大（22→30人/学年）を図り、さらに同年度より大学院版HSLP（修士/博士課程学生対象）を開講する。

グローバルヘルスリーダー養成コース（仮称）（修士/博士課程）の開設

国際公募等にてグローバルヘルス関連大学院分野を組織し同分野を中心にグローバルヘルスリーダー養成コースを開講する。平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講する。

【特徴的な取組（国際化、ガバナンス改革、教育改革等）】

- ・ 海外拠点/提携校増数により研究実習および臨床実習経験者を10年間かけて増数し、平成35年度には医学科50%、歯学科40%、保健衛生学科25%が卒業までに海外留学/実習/研修を経験することを目標とする。
- ・ 本学における外国人留学生数は、博士課程医歯学系においてすでに国内第1位であるが、大学院コースワークの英語化を含めた大学院課程改革を行い大学院教育の国際標準化を図り、10年後には25%へ増数する。
- ・ ガーナ・チリ・タイにおける本学海外教育研究協力拠点を中心にフィールド基盤型グローバルヘルス研究協力活動を展開/支援し、学士課程の研究/臨床実習、そして修士/博士課程での研究/プロジェクト活動において、それら機関を積極的に利用する。
- ・ 本学の帰国外国人留学生が多いアジア諸国を中心に、国別の本学OB 同窓会組織設立/拡充を進め、優秀な留学生の確保とともに、彼らが勤務する行政機関/教育研究機関とグローバルヘルス研究教育活動のための連携を行う。
- ・ これまで個別の組織、システムに管理、蓄積されていた教育・研究・診療及び大学管理運営情報等を一括してビッグデータとして蓄積し、教育効果や教育評価の分析、研究実態の分析、診療情報の分析を通して、教育・研究・診療の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供するクオリティマネジメントセンター（仮称）を設置し、同センターからの教育・研究・診療活動評価に関する数値化されたエビデンスに基づき、PDCA サイクルを確立し、学内の合意形成/学内資源の再配分を進める。
- ・ 教育改革を進めるために、様々な部局に散在する既存の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整え、統合教育機構（仮称）を設置し、同機構が全学的な教育開発/運営/支援および教員の教育力強化を行う体制を整える。
- ・ 学士/修士/博士課程科目やコースワークにおいて、①教員（TAを含む）対学生比率向上による少人数学習環境の創出および②反転授業の利用の推奨による学生の主体的学習を促すカリキュラムに変革する。また、③グローバルヘルス推進人材育成の観点から重要な学士（教養）課程の人文社会系科目を中心に二ヶ国語履修化を積極的に進める。

【海外の大学との連携の推進方策】

（協定機関の増数） 学生交流も含む包括的学術交流協定締結機関（平成25年5月現在で76大学）を増数する。

（海外臨床学習機会提供ネットワーク加盟） 近年、学士課程医学教育においては、国際認証に対する要求度上昇などを受け、特に臨床実習期間の海外学生受入において、個別協定締結に応じる欧米諸国機関が減少している。そこで、本学は米国医科大学協会が設立した海外臨床学習機会提供ネットワーク Global Health Learning Opportunities (GHLO) への加盟を行い、臨床実習留学機会の拡大を図る。GHLOは、一定の基準を満たして加盟が許可された教育機関間では、インターネット上の共通応募システムを通して、学生が自由に留学申請でき、本学学生の派遣、そして学士課程留学生の受け入れ規模の拡大が期待できる。

（グローバルヘルス分野における世界的トップ機関との連携） 開講予定のグローバルヘルスリーダー養成コース（修士/博士課程）に関して、グローバルヘルス分野における世界的トップ機関と、教員交流、コースワーク開発、研究活動などにおいて連携する。

（ジョイントディグリープログラム開講） 一つの大学だけでは提供できない魅力あるプログラムを構築することで、優秀な学生を獲得し、国際通用性の高い人材を育成することにより、海外における本学のプレゼンスを強化・向上させるため、海外拠点にて連携している現地教育機関とジョイントディグリープログラムを開講する。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行う。留学生数および割合において、平成26年度(通年)および平成27年度5月1日時点での実績で、すでに平成28年度の目標数を上回っている。

日本人学生に占める留学経験者の割合

入学直後の英語模擬交渉ワークショップ、帰国した上級生からの報告会、海外からの留学生との交流イベントなどで動機付けを行い、また留学機会拡大を図っている。平成26年度実績は大幅増数が見られ、最終(平成35年度)目標に大きく近づいた。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心に二ヶ国語履修化を進めるべく、「教養教育改革に関する検討会」において議論および調査を開始した。また修士/博士課程では既存コースワークの英語履修化を進める。平成26年度では、いずれも順調に増数された。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

学士課程学生においては、本学外国語力基準達成者数が順調に増数した。修士/博士課程学生においてはTOEFLIによる語学レベル測定を新規で平成26年度末に実施したが、達成者数は既に平成28年度目標を上回っている。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じぬ学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に6機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計14名)、大学院学生研究奨励賞(合計10名)、学部学生海外拠点派遣助成制度(合計20名)等の大学基金を用いた奨学金制度を整備・拡充した。

ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

語学力を有する事務職員の積極的採用の推進、語学研修機会の提供、人事評価への反映によるインセンティブ化により国際化対応力を高めるべく取り組む。本学事務職員外国語力基準達成者数は、目標達成に向け着実に増加している。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合教育機構(仮称)の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制を構築するため、既存の複数の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整えた統合教育機構(仮称)を全学組織として新設するための準備・調整・編成を統合教育機構検討ワーキンググループにて開始した。

迅速な意思決定を実現する工夫：統合国際機構(仮称)の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の国際競争力強化、国際戦略策定および推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に断行するために、関連業務に従事する教職員を一括集約した統合国際機構(仮称)を新設するための準備・調整・編成を統合国際機構検討ワーキンググループにて開始した。

IR機能の強化・充実

統合教育機構設置にむけての準備と平行して、教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を通して、教育の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供するIR部門(仮称)を統合教育機構内に設置すべく、準備・調整・編成を統合教育機構検討ワーキンググループにて開始した。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

学士(教養)課程における反転授業の導入のための調査及び検討を、反転授業推進ワーキンググループを組織して開始、平成27年度に2科目において試行的に実施した。

学生の主体的参加と大学運営への反映の促進

医学部医学科においては、カリキュラムの検討を行う組織である教育委員会により設置されるカリキュラム評価専門委員会(仮称)に、学生が学内外の外部有識者とともに常任委員として参加する形態について検討を開始した。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

入学試験の語学力評価への TOEFL 活用や国際バカロレアによる入学枠設置等についても入学試験ワーキンググループで検討を進めた。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

入学直後の英語模擬交渉ワークショップ、帰国した上級生からの報告会、海外からの留学生との交流イベントなどで動機付けを行い、また留学機会拡大を図っている。平成26年度実績は平成28年度目標を既に上回っている。

HSLP履修者数

少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program)の拡充および取組規模拡大にむけた検討・準備(カリキュラムおよび学習環境)を開始した。平成28年度より学士課程HSLP規模拡大(22→30人/学年)、さらに同年度より大学院版HSLP(修士/博士課程学生対象)を開講予定である。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置などの改革を行う。採択年度である平成26年度にも僅かだが増数があった。

新設するグローバルヘルスリーダー養成コース(仮称)(修士/博士課程)履修者数

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員/ユニット誘致のための具体的な候補者選定にむけて、グローバルヘルス分野における世界的トップ機関に赴き議論を開始した。平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講する予定であるため、平成26年度の履修者数は0人となっている。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈2014年度に履修開始したHSLP第2期生〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にしたコースを開講、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成する。平成26年度は開設にむけての連携先および招聘教員選定にむけての調査・交渉を開始した。

受入留学生の増数に向けての取組

学士課程受入留学生増数に向け、海外臨床学習機会提供ネットワーク Global Health Learning Opportunities(GHLO)に正式加盟した。これにより、多くの加盟校から優秀な留学生の受入増が期待できる。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

大学紹介動画を作成し、本学の特色ある教育、世界をリードする研究およびその推進体制、そして教育課程の国際化や研究の国際競争力強化などの国際化戦略と取組を紹介した。また、本学の国際的地位向上および知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者などに、グリーティングカードとともに広報誌や英語版本学年報を送付した。

海外教育機関とのジョイントディグリープログラム

海外拠点にて連携している現地教育機関(チリ大学およびチュラロンコン大学)と平成28年度にジョイントディグリープログラムを開講するため、設置申請準備を行った。

【海外の大学との連携の実績】

(協定機関の増数) 平成26年度は新たに6機関と協定を締結

(海外臨床学習機会提供ネットワーク加盟) 個別協定締結に加え、より多くの留学先確保や受入学生増数のため、Global Health Learning Opportunities(GHLO)に加盟した。

(グローバルヘルス分野における世界的トップ機関との連携) グローバルヘルス分野の世界的トップ機関から教員を招聘するため、米国で候補者調査を実施した。

(ジョイントディグリープログラム開講) 海外連携大学であるチリ大学およびチュラロンコン大学とジョイントディグリープログラムのカリキュラムや協定書などについて協議を重ねた結果、当初計画より早期の平成27年3月に文部科学省に設置申請を行った。



〈国立台湾大学との医学部間学術交流協定締結〉

■ 自由記述欄

情報発信

「医療分野でのグローバル人材育成」をテーマとした国際フォーラムを開催した。フォーラムでは、佐野文部科学省大臣官房審議官(高等教育担当)による基調講演の後、本学、新潟大学、ソウル国立大学、そしてチュラロンコン大学におけるグローバル教育・グローバル人材育成の紹介があり、最後に「医療系グローバル人材育成における大学の役割と取組」に関するパネルディスカッションを行った。教育関係者、企業関係者、高校生など合計70名が参加した。



〈グローバル人材育成に関する国際フォーラム〉

外国人OBの積極的活用

本学の帰国外国人留學生が多いアジア諸国を中心に、国別の本学OB同窓会組織設立/拡充を進めるための第1ステップとして、帰国留學生とのネットワークを構築し、留學生情報を一元的に管理するため、SNS/留學生管理サービスを導入した。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数にむけ、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を行っている。特に後者においては英語履修コース(歯科医学グローバルリーダー養成プログラム、疾患予防グローバルリーダー養成プログラム、ミャンマー連邦共和国に対する歯学の指導者養成事業)などを中心に積極的に学生受入れを行い、留学生数および割合において平成28年5月1日時点での実績で、すでに平成28年度の目標数を上回っている。

留学生増数を見据えた教員の教育力強化

英語による教育力(英語での授業実施、英語でのプレゼンテーション・質疑応答指導を対象)向上のための研修(グループおよび個人特訓)を、外部機関の協力のもと実施した。同研修受講では、得た知識やスキルをできる限り多くの教員に伝授することを目的として、平成28年度に所属する部局または分野の教員に対してのセミナー実施を義務としている。

外国語による授業科目数・割合

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心とした教養教育の二ヶ国語履修化を平成28年度より開始/拡大する。修士/博士課程におけるコースワークは、平成27年度開設科目(通年)の27%が英語履修となっている。

学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組

特に学士課程において、入学直後および定期的語学力測定の実施と、リーダー養成英語選抜プログラムや海外留学派遣者選考における英語力基準の設定、そして必須および選択語学科目の洗練と、長期休暇中の語学力向上プログラムなどの開講などにより、本学外国語力基準達成者が順調に増数した。修士/博士課程については、平成29年度入試からのTOEFL試験導入により入学時の英語力の正確な把握が可能となり、そして授業の英語化の推進および英語力向上プログラム拡大を図ることにより、基準達成者の増加が期待できる。

日本人学生の留学についての支援体制

授業料負担の生じない学生交換/授業料相殺形式をとる大学間学生交流協定の締結校増数を図るとともに(新規に8機関と締結)、学部学生海外研修奨励賞(合計14名)、大学院学生研究奨励賞(合計8名)等の大学基金を用いた奨学金制度や、留学先授業料補助を整備・拡充した。また、派遣学生への情報提供、渡航手続き支援、教務部との情報やり取りのスムーズ化などを集約的にを行い、ワンストップサービスを提供する部門を後述する統合国際機構内に新設した。

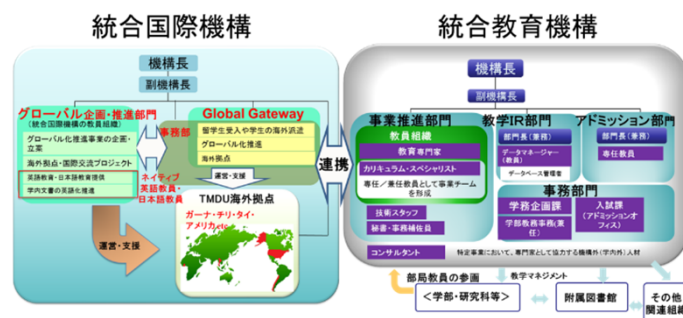
ガバナンス改革関連

事務職員の高度化への取組

本学事務職員外国語力基準達成者数は、目標達成に向け着実に増加している。語学力を有する事務職員の積極的採用の推進、語学研修機会の提供、語学研修受講者のTOEIC受験を義務化し語学研修の効果測定を行うことなどにより、語学力の向上度合いを測りつつ、事務職員の国際化対応力を高める更なる効果的な取組を検討する。

迅速な意思決定を実現する工夫: 統合教育機構及び統合国際機構の設置

学長のリーダーシップのもと、本学の教育ポリシーの正確な反映と継続的質改善取組により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制の構築のため、統合教育機構を設置し、さらに本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に行うための組織として統合国際機構を設置した。



〈統合国際機構及び統合教育機構組織図〉

IR機能の強化・充実

教育情報等を一括して蓄積し、教育効果や教育評価の分析を通して、教育の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供する教学IR部門を統合教育機構内に配備した。

教育改革関連

学生の実質的学びの時間の確保に関する取組

統合教育機構(上述)内に、アクティブラーニング推進を担当する教育技法開発チームを設置し、全学的にアクティブラーニングを推進するためのインフラ整備と教員研修を長期的視点に立ち進める体制を整備した。

TOEFL等外部試験の学部入試への活用・多面的入学者選抜の実施

学士課程では平成30年度より特別選抜(推薦入試・国際バカロレア入試・帰国生入試)枠を設置すること、そして同選抜では英語力評価方法としてTOEFLやIELTSなどの外部試験を活用することが決定した。修士/博士課程では平成28年度より一般選抜において英語力評価方法としてTOEFLを導入することが決定した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

学士課程卒業生に占める海外経験者の割合

海外留学に対する内的/外的動機付けのための様々な取組とともに、協定校増数や留学プログラム増数による留学機会拡大の成果として、各年度あたりの海外派遣学生数は着実に伸びている。他方、特に医学科においては複数の学年に存在する留学機会に同一学生が応募することが少なく、結果「卒業生に占める海外経験者の割合」としては伸びが不十分となっている。今後のさらなる増数のために、学士課程においては低学年での本学海外拠点での研究/診療ボランティア活動などについての検討・企画を進めている。

HSLP(少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP(Health Sciences Leadership Program))履修者数

学士課程学生対象プログラムについては、正規履修生募集人数をそれまでの20名から平成27年度には25名に拡大し、平成28年度には30名に拡大する予定としている。また正規履修生に加え、より多くの学生が本グローバル教育機会に参加できるよう履修可能科目ほかへの制限を設定したassociate membershipを設立(各学年20~30名程度を予定)し、平成28年度から募集開始することとした。修士/博士課程学生対象プログラムの平成28年度内開講を計画しており、それにむけ各課程で学ぶ学生へのヒアリングなどを行い、カリキュラム策定を進めている。

全大学院数に占める外国人留学生の割合

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置などの改革を進め、すでに平成28年度目標は達成している。

新設するグローバルヘルスリーダー養成コース(仮称)(修士/博士課程)履修者数

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員を獲得した(国際健康推進医学分野長1名、国際保健医療事業開発学分野長1名)。彼らを中心に、開講(平成30年度に修士コースを開講、平成32年度に博士コースを開講予定)にむけた体制準備とカリキュラム策定が行われている。



〈ハーバード医学校での臨床実習〉



〈2015年度に履修開始したHSLP第3期生〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

グローバルヘルスリーダー養成コース(修士/博士)(英語履修)の開設

アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位に向け、グローバルヘルス分野の世界的トップ機関と連携し、WHO国際機関等への卒業生輩出を目標にした修士/博士コースを開設し、アジア諸国から優秀な学生を集め次世代のリーダーを育成することを目標としている。平成27年度は同コース開設と運営で中心的役割を果たす教員を獲得し、体制準備とカリキュラム策定を開始した。

受入留学生の増数に向けての取組

学士課程受入留学生増数に向け、学生交流協定校の増数を図るとともに、アメリカ医科大学協会が設置した海外臨床留学のための医科大学連盟(Global Health Learning Opportunities, GHLO)に正式に加盟した。加盟する全世界からの50余校の学生は、一元化された情報提供・応募システムより留学先を選定でき、留学希望学生の効率的な情報収集が可能になるため負担軽減が図られる。GHLOに加入し、多くの加盟校からの優秀な留学生の受入増が期待される。

認知度・評判(Reputation)向上にむけてのブランディングの取組

本学の国際的地位向上および知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者などに、グリーティングカードとともに英語版広報誌を送付した。海外向け研究情報冊子TMDU Research Activitiesを企画して発行した。また、TMDU Research ActivitiesのデータをNature Publishing Groupによるターゲティングメールで海外の研究者向けに配信した。米国科学振興協会(AAAS)が提供しているオンラインニュースサービスのEurekAlertを、新規に利用してプレスリリースを掲載することで世界の報道関係者に情報を発信した。世界的な大学ランキング機関(英国の高等教育機関情報誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)およびクアクアレリ・シモンズ(QS))に本学の教育研究などに係る情報を提供した。この情報と独自の調査によりTHEから発表されたTHE World's Best Small Universities(世界最高の小規模大学を選出するランキング)において、学生数に対する教員数の割合の高さや、論文の被引用回数などの教育・研究の質を示す指標で高く評価され、本学は日本で第1位、世界で第12位の大学に選出された。

海外教育機関とのジョイントディグリープログラム

海外拠点にて連携している現地教育機関(チリ大学およびチュロンコン大学)と平成28年度にジョイントディグリープログラムを開講するため、平成27年3月に設置申請を行い、審査の結果、平成27年6月に我が国で初めてジョイントディグリープログラムを運営するための2つの国際連携専攻の設置が認められた。なお、チリ大学とのジョイントディグリープログラムは平成28年4月より開始され、チュロンコン大学については平成28年8月より開始の予定である。

【海外の大学との連携の実績】

(協定機関の増数) 平成27年度は新たに8機関と協定を締結(連携のもとでの学生交流実績) 平成27年度も、インペリアル・カレッジ・ロンドン(医学科)やチュロンコン大学(医学科、歯学科、保健衛生学科)等、多くの海外大学との学生交流実績を上げた。中でもオーストラリア国立大学には、本学より過去最多の10名の医学科学生を派遣し、また同大学から3名の学生を受け入れ、本学で研究や臨床実習に従事した。更に、平成27年度に学術交流協定を締結したポストン大学からは4名の歯学科学生が来日し、臨床実習に従事した。平成28年度には本学の学生が2名、同大学に派遣予定である。

(世界トップ機関との研究連携実績)

Harvard Medical School(HMS)と研究レベルでの連携強化をめざし、若手研究者の長期派遣とHMSからの研究者招聘を組織的にを行い、若手研究者間のネットワークや、HMSが持つ全世界的なネットワークの活用を通して、本学の各研究グループが、世界的なネットワークの中でトップレベルの一員として広く認知されることを目指した国際的共同研究ネットワークを構築するための取組を進めている。



〈チリ大学、チュロンコン大学とのジョイントディグリープログラム協定調印式〉

■ 自由記述欄

海外で活躍する卒業生による、キャリア形成/グローバル教育への協力

海外トップ教育研究機関で活躍している本学卒業生を短期招聘し、キャリア形成およびグローバル教育のための講義や交流会を集中的に開催する特別プログラムを開始し、平成27年度にはインペリアル・カレッジ・ロンドンで麻酔・疼痛・集中治療分野主任教授をされている高田正雄先生を招聘し、大学院生対象特別講義、英語研究プレゼンテーション上達レッスン、キャリア形成に関しての対話型講義を実施した。



〈高田正雄先生による特別講義〉

優秀で志の高い入学生獲得を目的とした、本学グローバル教育取組への高校生の参加

医療・医学におけるグローバル人材に必要な資質獲得にむけたゴール設定を目的として、第1学年学生を対象に平成25年度より毎年開催している国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ(Global Communication Workshop)について、高大連携先高等学校学生にも門戸を開き、平成27年度は2校から18名が参加した。平成28年度は4校から28名が参加予定である。